

安全データシート

1.化学物質等及び会社情報

製品名 : ツインパワー
会社名 : 山崎産業株式会社
住所 : 兵庫県伊丹市北伊丹6-67
電話番号 : 0727-82-0992
FAX番号 : 0727-82-1097
推奨用途及び使用上の制限 : 洗剤(合成樹脂タイル床の洗浄用)
アルカリ性に弱い床剤や白木床には適さない。
整理番号(統合コード) : 40658

2.危険有害性の要約

最重要危険有害性及び影響 : 皮膚腐食性/刺激性、眼に対する重篤な損傷/眼刺激性、皮膚/呼吸器感受性、特定標的臓器毒性(単回ばく露)、特定標的臓器毒性(反復ばく露)

GHS分類

物理化学的危険性 : 区分外

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分外
急性毒性(経皮) : 分類できない
急性毒性(吸入:ガス) : 分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気) : 分類できない
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト) : 分類できない
皮膚腐食性/刺激性 : 区分1
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 : 区分1
呼吸器感受性 : 区分1
皮膚感受性 : 区分1
生殖細胞変異原性 : 分類できない
発がん性 : 分類できない
生殖毒性 : 区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分1(神経系、肝臓)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分1(神経系、消化管、肝臓、腎臓、呼吸器)
吸引性呼吸器有害性 : 分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性・急性 : 区分3
水生環境有害性・長期間 : 分類できない
オゾン層への有害性 : 分類できない

ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
臓器の障害
長期にわたるまたは反復ばく露による臓器の障害
水生生物に毒性

注意書き

【予防策】

使用前に取扱説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱 / 火花 / 裸火 / 高温のもののような着火源から遠ざけること。 - 禁煙 -
容器を密閉しておくこと。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
製造者 / 供給者または規制当局が指定する防爆型の電気機器 / 換気装置 / 照明機器を使用すること。
火花を発生しない工具を使用すること。
受器を接地すること / アースをとること。
粉じん / 煙 / ガス / ミスト / 蒸気 / スプレーを吸入しないこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取扱い後はよく洗うこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
環境への放出を避けること。
製造者 / 供給者または規制当局が指定する保護手袋および保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

【対応】

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
眼に入った場合：清浄な流水で15分以上注意深く洗浄すること。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断 / 手当てを受けること。
皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと / 取り除くこと。皮膚を流水 / シャワーで洗うこと。多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断 / 手当てを受けること。
吸入した場合：被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断 / 手当てを受けること。
暴露した場合：医師に連絡すること。
気分が悪い時は医師の診断 / 手当てを受けること。
取扱い後はよく洗うこと。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
火災の場合には火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
漏出物を回収すること。

【保管】

施錠して保管すること。
容器を密閉して換気の良いところで保管すること。

【廃棄】

内容物 / 容器を国際 / 国 / 都道府県 / 市町村の規則に従って廃棄すること。

【使用上の注意】

安全データシート(SDS)を参照して下さい。

3.組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	:	混合物
官報公示整理番号(化審法)	:	既存
官報公示整理番号(安衛法)	:	有り
成分及び含有量	:	
成分	:	非イオン界面活性剤,脂肪酸石鹼,アルカノールアミン,抗菌剤, 青色染料,香料 (水分:約80%)

4.応急措置

吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	:	皮膚(又は髪)に付着した場合；直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと / 取り除くこと。皮膚を流水 / シャワーで洗うこと。多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断 / 手当てを受けること。
目に入った場合	:	眼に入った場合；清浄な流水で15分以上注意深く洗浄すること。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断 / 手当てを受けること。
飲み込んだ場合	:	水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水又は牛乳を飲ませる。直ちに医師の診断を受ける。被災者に意識がない場合には、口から何も与えてはならない。

応急措置をする者の保護
医師に対する特別注意事項

救助者は耐薬品性保護手袋、側板付保護眼鏡等の適切な保護具を着用する。
情報なし

5.火災時の措置

- 消火剤 : 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水
- 使ってはならない消火剤 : 棒状の水
- 特有の危険有害性 : 燃焼ガスには、一酸化炭素等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
消火作業は、可能な限り風上から行う。
関係者以外は安全な場所に退避させる。
周囲の設備などに散水して冷却する。
消火のための放水等により、製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な措置を行う。
- 消火を行なう者の保護 : 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用し、煙の吸入を避ける。

6.漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスク等)を着用する。
多量の場合、人を安全な場所に退避させ、風上から作業する。
必要に応じた換気を確保する。
- 環境に対する注意事項 : 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
- 除去方法 : 少量の場合、吸着剤(土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス・雑巾等でよく拭き取り、大量の水で洗い流す。
大量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラム等に回収する。
- 二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。
床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。
漏出物の上をむやみに歩かない。
火花を発生しない安全な用具を使用する。

7.取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
- 注意事項 : 蒸気又はヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。 火気厳禁
- 安全取扱い注意事項 : 作業場の換気を十分行う。
保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用。
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
- 保管
- 適切な保管条件 : 直射日光を避け、通気の良い場所で容器を密閉し保管する。火気厳禁。
水分や高湿に注意。屋内保管が望ましい。
- 安全な容器包装材料 : 製品使用容器に準ずる。

8.暴露防止及び保護措置

- 設備対策 : 蒸気、ヒュームまたはミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。
- 管理濃度 : 設定されていない
- 許容濃度
- 日本産業衛生学会 : (製品のデータ)設定されていない
(成分のデータ)参考情報;「2-アミノエタノール」3ppm 7.5mg/m³(2013年度)
- ACGIH : (製品のデータ)設定されていない
(成分のデータ)参考情報;「2-アミノエタノール」
TLV-TWA 3ppm TLV-STEL 6ppm(2010年度)
- 保護具
- 呼吸器の保護具 : 通常の手取扱いでは特に必要ない。状況に応じて着用する。
- 手の保護具 : 不浸透性(耐薬品、耐油)保護手袋
- 目の保護具 : 側板付き保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面)

皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣、ゴム長靴
適切な衛生対策 : 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

9.物理的及び化学的性質

物理的状态

形状 : 液体(20)
色 : 青色
臭い : 微香料臭(リモネン)
臭いの閾値 : データなし
pH (測定条件) : 10.5 ~ 11.5(製品5%水溶液)

物理的状态が変化する特定の温度 / 温度範囲

沸点 : 100 以上
融点 : -5 以下
引火点 (測定方法) : 示さず(C.O.C)
蒸発速度 : データなし
燃焼性(固体、ガス) : データなし
燃焼又は爆発特性
燃焼又は爆発限界 上限: 下限: : データなし
蒸気圧 : データなし
蒸気密度 : データなし
比重 : 1.040 ~ 1.044(25)
溶解度:水溶解性 : 水と任意に相溶
溶媒溶解性 : データなし
n-オクタノール / 水分配係数 : データなし
発火点 : データなし
自然発火温度 : データなし
分解温度 : データなし
その他のデータ
粘度 : 50 ~ 60mPa·s(25)

10.安定性及び反応性

安定性 : 通常取り扱い条件では安定。
反応性 : 自己反応性なし。酸性物質とは中和反応により発熱する。
避けるべき条件 : 40 以上の温度で長時間放置すると徐々に青色の退色が進行する。
避けるべき材料 : 鉄、アルミ等は腐食するので接触を避ける。
混触危険物質 : 情報なし
危険有害な分解生成物 : 情報なし
その他 : 情報なし

11.有害性情報

急性毒性(経口) : (製品のデータ)情報なし
(成分のデータ)参考情報;「2-アミノエタノール」経口(ラット)LD50:1720mg/kg
配合量から分類は区分外となる。
急性毒性(経皮) : (製品のデータ)情報なし
(成分のデータ)参考情報;「2-アミノエタノール」経口(ウサギ)LD50:1000mg/kg
「非イオン界面活性剤」情報なし
急性毒性(吸入:ガス) : 情報なし
急性毒性(吸入:蒸気) : 情報なし
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト) : 情報なし

皮膚腐食性/刺激性	:	(製品のデータ)情報なし (成分のデータ)「2-アミノイタノール」:腐食性あり[ウサギ]動物を用いた皮膚刺激性試験結果の記述(CERIハザードデータ集 2001-41(2002)、ACGIH(7th,2001))「腐食性を示す」「刺激性、壊死」から、「腐食性を有する」と考えられる。
眼に対する重篤な損傷/刺激性	:	(製品のデータ)情報なし (成分のデータ)「2-アミノイタノール」:重度[ウサギ]ウサギを用いた眼刺激性試験のデータ(CERIハザードデータ集2001-41(2002)、ACGIH(7th,2001))の記述「角膜混濁、虹彩・結膜浮腫等の非常に強い刺激性」等から、「眼に対して強度の刺激性を有し、また皮膚が腐食性を示すので、目も腐食性を有する」と考えられる。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	:	(製品のデータ)情報なし (成分のデータ)「2-アミノイタノール」: 皮膚感作性:陽性 呼吸器感作性:「極めて低い濃度の本物質を含むエアロゾル吸入誘発試験において、被験者が「咳、鼻水、鼻詰まり、喘息様呼吸」を示した。区分1 (CERIハザードデータ集 2002)
生殖細胞変異原性	:	(製品のデータ)情報なし (成分のデータ)参考情報;「2-アミノイタノール」 体細胞を用いるin vivo変異原性試験:陰性
発がん性	:	
IARC	:	情報なし
NTP	:	情報なし
日本産業衛生学会	:	情報なし
生殖毒性	:	(製品のデータ)情報なし (成分のデータ)「2-アミノイタノール」:母毒性のみられる用量で胎児に腎盂拡張がみられた。ラットの催奇形性試験で母毒性のみられる用量で、胎児に腎盂拡張がみられている(CERIハザードデータ集 2001-41(2002))が、同報告において、何らかの影響が認められた新生児数の割合や重大な影響(malform)が認められた新生児数の割合は、2-アミノイタノールを投与した群が、対照群に比較し、明らかに大きい値を示している。投与の影響があったと考えられる。しかし、これらの影響は高用量で低値になる傾向があることから、この結果のみでは判断できない。
特定標的臓器毒性 - 単回暴露	:	(製品のデータ)情報なし (成分のデータ)「2-アミノイタノール」:ヒトについては「頭痛、吐き気、脱力、めまい、指先のしびれ、胸の痛み」、「肝臓の腫大、血清中のALTレベル及びアルカリホスファターゼの活性の増加、6か月後に慢性肝炎」実験動物については「運動失調、痙攣」、「肝細胞の脂肪変性」(CERIハザードデータ集 2001-41(2002))の記述がある。なお、実験動物の神経系、肝臓に対する影響は、区分1に相当するガイドス値の範囲でみられた。
特定標的臓器毒性 - 反復暴露	:	(製品のデータ)情報なし (成分のデータ)「2-アミノイタノール」:実験動物については、「自発運動の抑制、嗜眠、皮膚への刺激、不整呼吸、死亡(83%)が観察され、さらに、死亡例に精子形成の阻害、消化管への影響(小腸壁の菲薄化、乾燥糞による閉塞)が報告されている。げっ歯類では、肝臓に肝細胞の脂肪変性、肺の間質におけるリンパ様組織の増加がみられている。」、「イヌの生存例で、肝臓にうっ血、肝細胞の空胞化と混濁腫脹、クッパー細胞中の褐色色素の増加、脾臓で白脾髄におけるリンパ球の減少、赤脾髄における褐色色素貪食マクロファージの増加と赤血球の減少、腎臓で尿管上皮に硝子顆粒の増加、尿管上皮細胞の混濁腫脹、肺にうっ血と小出血巣、イヌの死亡例で、気管支肺炎、脾臓でリンパ球と赤血球の減少がみられている。」(CERIハザードデータ集 2001-41(2002))等の記述がある。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイドス値の範囲でみられた。
吸引性呼吸器有害性	:	情報なし
有害性その他	:	
12.環境影響情報		
生態毒性(急性)	:	(製品のデータ)情報なし (成分のデータ)参考情報;「2-アミノイタノール」 (藻類)EbrC50(淡水 OECDTG201): 2.10 mg/L[セレナストラム]:区分2 (成分のデータ)参考情報;「非イオン界面活性剤」 (魚類)LC50(48hr)6.6 mg/L[ヒメダカ]:区分2 分類は区分3となる
生態毒性(長期間)	:	(製品のデータ)情報なし (成分のデータ)参考情報;「2-アミノイタノール」 (藻類等): NOEC(72hr): 1.00 mg/L[セレナストラム] 「非イオン界面活性剤」情報なし

残留性 / 分解性 : (製品のデータ)情報なし
(成分のデータ)参考情報;「2-アミノエタノール」分解性の良好な物質(BOD 83%)
「非イオン界面活性剤」微生物による分解性は低い(JIS K3363-1990)

生体蓄積性 : (製品のデータ)情報なし
(成分のデータ)参考情報;「2-アミノエタノール」生物濃縮性は低いと推定(BCF3.2)
「非イオン界面活性剤」情報なし

土壤中の移動性 : 情報なし

オゾン層への有害性 : 情報なし

その他 : BOD₅:84ppm COD_{Mn}:79ppm n-Hexane:28ppm(製品0.1%)

13.廃棄上の注意

内容物 / 容器を国際 / 国 / 都道府県 / 市町村の規則に従って廃棄すること。
焼却する場合、関連法規・法令を遵守する。
廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

14.輸送上の注意

国内規則 : 陸上輸送:消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。
海上輸送:船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送:航空法に定められている運送方法に従う。

国際規則 : 航空輸送はIATA及び海上輸送はIMDGの規則に従う。

国連分類・国連番号:

IATA: UN Number : 3267
Proper Shipping Name: : CORROSIVE LIQUID, BASIC, ORGANIC, N.O.S.
Class : 8
Packing Group :
IMDG: UN Number : 3267
Proper Shipping Name: : CORROSIVE LIQUID, BASIC, ORGANIC, N.O.S.
Class : 8
Packing Group :
Additional Information: : なし

輸送の特定の安全対策及び条件 : 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。
転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

緊急時応急措置指針番号 : なし

15.適用法令

国内適用法令

化学物質排出把握管理促進法 : 第1種指定化学物質 No.20 2-アミノエタノール (10.0wt%含有)

化審法(特定化学物質、監視化学物質) : 特定化学物質・監視化学物質を含有しない。

労働安全衛生法 : 57条の2 通知対象物質
2-アミノエタノール 10.0wt.%含有
イタノール 0.1wt.%含有

毒劇物取締法 : 該当しない

消防法 : 非危険物

高圧ガス保安法 : 該当しない

火薬類取締法 : 該当しない

船舶安全法 : 危険物告示 別表第3 腐食性物質

航空法 : 危険物告示 別表第11 腐食性物質

その他の法令 海洋汚染防止法 : 有害液体物質(Y類)(エタノールアミン)

物質登録情報 ENCS(Japan) : 収載
TSCA(USA) : 収載
EINECS(EU) : 収載

AICS(Australia)	:	収載
DSL(Canada)	:	収載
ECL(Korea)	:	収載
PICCS(Philippines)	:	収載
IECSC(China)	:	収載

16.その他の情報

引用文献

- ・化学物質等安全データシート(MSDS) - 第1部:内容及び項目の順序(JIS Z 7250)
- ・国際化学物質安全性カード(ICSC)コンパイラズガイド 日本語版国立衛生試験所化学物質情報部編、化学工業日報社、1994年
- ・製品安全データシートの作成指針(改訂版)、厚生労働省医薬局審査管理課化学物質安全対策室・厚生労働省労働基準局安全衛生部化学物質調査課・経済産業省製造産業局化学物質管理課・環境省環境保健部環境安全課監修、(社)日本化学工業協会・日本レスポンシブル・ケア協議会、平成13年10月
- ・日本界面活性剤工業会、SRA-GHS分類判定(2006.2)
- ・日本界面活性剤工業会、MSDS作成ガイドラインと主要製品の標準MSDSモデル(平成13年11月)
- ・(社)日本化学工業協会、GHS対応ガイドライン暫定版 製品安全データシートの作成指針改訂2版、平成18年5月
- ・(株)三菱総合研究所、平成19年度経済産業省委託事業 GHS分類基準等の基盤整備事業報告書、平成20年3月

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。すべての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。御使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願いいたします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上で御使用ください。当製品安全データシートは、日本国内法規を基準に作成したものです。